

【コースのご案内】

東武日光駅集合 (9.15) - - 出発 (9.35) - - 東武バス -
- (10.00) 湯滝入口 - - 10分 - - 湯滝

湯滝出発 (10.15) - - 30分 - - 小田代橋 (11.00) - - 30分 - - (11.45) 青木橋 (12.15) - - 40分 - - 石楠花橋 (13.15) - - 10分 - - (13.45) 滝上 - - 竜頭の滝見物 - - (14.00) 竜頭茶屋又は地獄茶屋 (14.40) - - バス - - (15.41) 東武日光駅・解散 (15.59) - - (18.23) 北千住

日光戦場ヶ原

【日光戦場ヶ原】

男体山の西方、標高約一四〇〇メートルのところへ広がる総面積約四〇〇ヘクタールの平坦地域が戦場ヶ原(せんじょうがはら)です、男体山の火山活動により誕生した湖沼群に土砂が流入して湿原化した地帯で自然の宝庫ですが、年々乾燥化が進んでいます。

ほぼ中央を国道120号線が南北に貫通していますが、国道より東側の三本松地区は開拓農場として高原野菜が栽培されているほか、冷涼な気候を生かしたイチゴの育苗場として利用されていて、現在残っている湿原区域は国道よりも西側が中心で、木道でここを歩く自然研究路は奥日光のハイキングコースの中心的存在です。



【戦場ヶ原自然研究路】

中善寺温泉から湯本温泉まで、幾つかの散歩道(自然研究路)が有り、湖と清流に添い、湿原の群生植物やミズナラ林の中を通り男体山や太郎山を眺めながら、四季折々に楽しめますが、今回は戦場ヶ原自然研究路を中心に、湯滝、泉門池、しゃ

くなげ橋、竜頭の滝を巡ります。出発地点湯滝は湯ノ湖の湖尻に有り、見上げる湯滝は白い飛沫を豪快に上げて落ちていきます、茶店の脇で指導標に従い戦場ヶ原自然研究路に入ります、原生林の深い森の中を行くと、やがて湯川の流れが聞こえ児滝が現れる、湯川に添ってゆるやかに下りますが、このあたりは十和田の奥入瀬に似た風情とか、やがて小田代橋で湯川を渡り、歩きやすい林間の道が続きます、暫くして美しい泉門池(ムナカハ)のほとりに出ます、此処は天候にも依りますが水中植物が光と影に依って神秘的な色彩を醸し出して居ります、休憩用のベンチも有り小休憩です、男体山をバックに記念写真も良いでしょう。

と木道の湿原に入りますがこの季節(七月)にはハクサンフクロが一緒に開花し今回の目的の一つです、この付近でお花を眺めながらお昼にします。青木橋で再び左岸に移りこの辺は広大な戦場ヶ原の中央部にあたり、男体山や太郎山の秀峰が望まれ、高山植物の宝庫です、やがてミズナラ林になりT字路に出て、左に行くと赤沼茶屋に通じます、此処を右に折れるとマス釣り場があり、この季節はマスが解禁で沢山の太公望が釣り糸を垂れて居る事と思います、石楠花橋で柳沢林道を横切り、更にミズナラ林の中に付けられた道を進むと国道に出会い竜頭の滝に出ます、その名にふさわしく竜の様に長流して岩盤をころげ落ちる滝を見ながら階段状の道を下り観瀑台に着きます、バス停はすぐです。

ご参加メモ

当地は標高が高いので涼しいとは思いますが都内より5程低いだけです、また、日よけの帽子は必ずご持参下さい。足下はスニーカーで充分ですが距離が有りますのでご自分の足に馴染んだものにして下さい。途中自動販売機など有りますが、水分は500CCのボトル一本はお持ち下さい。



【東武電車時間表】

浅草 北千住 春日部 下今市 東武日光
快速 7.10 - - 7.21 - - 7.44 - - 9.10 - - 9.20

この電車に乗り遅れましたら当日ご参加をお諦め下さい

東武日光 下今市 春日部 北千住 浅草
快速 13.59 - - 14.12 - - 16.01 - - 16.23 - - 16.35
快速 15.01 - - 15.16 - - 17.01 - - 17.23 - - 17.35
快速 15.59 - - 16.05 - - 18.01 - - 18.23 - - 18.35

昭文社版・山と高原地図「日光」複写見本です、正確なものは書店でお買い求め下さい

